

インド在外研究学術調査フィールドノオト1996-97年

月日	場所、収集番号	メモ内容
97-4-12		91134km, 9:10。大学前を町に向って南下。Old Madras Road NH 4をKolar に向う。 11:58km, 9:54。鉄道を渡る。スイカの店が多い。どこの貯水池にも、ホテイアオイが繁茂していて、富 栄養化がうかがえる。 ココヤシが多い。ブドウ園がある。Bangaloreに野菜を送っている地域であろう。トマト、ジャガイモ、トウガラシ。 1176km, 10:44発。Hoskote町、茶を飲む。 1179km, 10:47、Kolarに40 km on NH4。若いユーカリの植林。 やっと郊外の畑作地帯に出る。畑の大半は休閑で、一部は耕起されて、種まきが始まっている。 ジャガイモが畑貯蔵されている。トウモロコシが少し栽培されている。バラ?花卉の畑がある。 1198km。キャベツあり。ヒツジ30頭。Mango園、ユーカリが多い。山が見えてきた。 左手で、ラギの風選をしていた。右にイネらしきもの少々ある。左に溜池。 母岩が露出した地域に入る。果樹、読めない。 233km, 11:36。トマト苗が生育中、30a。Mangoの木が多い。60km/hで走行している。まだ、ラギの脱穀が続いている。右に少し水稻がある。 12:40km, 11:42。Mulbagalへ14km。Koralはbypassした。右は母岩露頭、荒地で、土壌が浅い。 あくまで赤い土である。若葉が美しい。右に溜池がある。土地の起伏にしたがって、水溜りがある。 稲田は生育中と登熟中がある。網で魚を採っていた。 1253km, 11:55。Mulbagalに入る。ジャックフルーツを売っている。横道に入る、MDR。 イネの路上脱穀をしている。Tayalur村に向う。 1270km, 12:35。村の中のCanara Bankに行く。友人を拾うためであろう。ココヤシを飲む。 村人から情報を得る。 12:59、Kuppunpalliに向う。ヒマワリ、トマトの栽培がある。 1275km, 13:20。MD Rroad。Kuppampalya村。サマイとアワ、キンエノコロはkoral。 10年前はサマイと混作していたが、今はやめたという。 左手にラギの出穂した畑がある。Rabiでも少しは作る。50aくらいで、3筆。またラギあり。 soybeanとトウモロコシの混作畑。 1284km, 13:32。州境を越えた。トウモロコシ畑、10aくらい。 1286km, 13:59。Uankatagirikata で昼食を取り、北上する。Palmanerまで40km。 若いmangoが多い。イネやトマトは少しある。Green+yellow → 収穫 12:95km。谷間の窪地はイネが多い。ラギも少なくない。 SH 32。ココヤシ、サトウキビもある。トウモロコシは少ない。 1308km, 14:28。Baireddaipalle町。トウガラシの畑。
	97-4-12-1	

97-4-12-2

13年前と比べて、バスなど交通量が多く、途中の町々もにぎわっているような気がする。山の中の村であった

ような気がするが、町は人出が多い。

Jalaripalli村にはまだありそうだということで、2人乗り込んできた。

サマイと混作されている*S. glauca*。コドラとは混作しないという。

今はイネが入ってきたので、作らなくなったという。しかし、健康によいから、少しは食べるようにしている。

cardとsaltを混ぜて、annamu にする。ここで2軒の農家が分担して、料理を作ってくれた。

A家： upittu, Kheer： B家： Annamu, Sankati

13年前の印象と大きく変わって、かなり開けてしまっていた。山深い村ではなかった。Jalaripalli村では7-8名の男性と、2軒の農家の協力を得て、*S. glauca*の

料理を作ってもらった。非常に親切に、手際よく作り、かなり新しい情報が得られた。Telgu語の村であった。

井戸前の公共施設で、話を聞き、2戸の農家で分担して料理を見せてくれた。*S. glauca*といっても、*P. sumatrense*で1:3ほどの割合混合率であった。気象が乾燥すれば、*S. glauca*が多くなる。

呼称が「アワ・サマイ」kora samuru というところが面白い。擬態雑草起源を暗示している。

混合収穫物は、tela samuru といって店で売っており、これを1kgほど買ってきて作ってくれた。

1325km、17:49、帰途に着く。NH 4に出て、Bangaloreに向う。

1342km、18:08。Bangaloreまで132km。NH 4に出る。夕陽が近い。

途中で、お茶を飲んで、10時過ぎにYelahankaに着いた。

1522km、総計413km走行した。1kmあたり、2.55Rsの支払い。

97-4-21

19:00に自宅を出て、バス停に行く。ManturさんとBangalore駅に行く。

21:00発、実際は21:23のxxxkumari、S5-56 に乗り、Coimbatoreに向う。Sleeper Classで、2階で寝る。

車掌はおしゃれなネクタイを締めて、ブレザーを着ていた。1コンパートメントに5人が寝る。起きたらたたむ。

97-4-22

6:30頃、1時間遅れて着いた。すでにジープが待っていて、スタッフはTNAUのT guesthouseに、私は一人

Sugarcane GHにつれて行かれ、6:40には19号室に落ち着く。8:00までひと寝入りしたが、掃除で起された。

さらに10:00まで寝る。11:00にぶらぶら昼食に出ようとしたが、すべてGHで用意されているようだ。

しかしじっとしているのも、イヤだから、歩いて本通りに向った。感にしたがって、TNAUに30分で着いた。

TGHの横で、昼食を食べた。

Sugarcane Breeding Institute、構内に3 bus stopsがある。Coimbatore 641007

	その後、皆さんの準備の邪魔をしても悪いと思ったので、果樹園と植物園に入ろうとした。ところがともに
	2-3 p m でないとは入れないという。仕方がないので、GHに戻ることにした。途中でココヤシの、赤と緑の
	2品種を飲み比べてみた。赤の水は甘い、バターは食べない。緑は水よりも、バターのところがおいしい。
	GHの前庭で涼む。暑いので、眠くて仕方がない。半分まどろみながら、AnnualReportを読む。6-7 p m、
	SGIの反対側を探索する。インドボダイジュが多いのは、Bangaloreとは異なる。海岸沿いに伝わってきた
	のであろう。シバ神を祭っているところが多い。Sci.Homeに戻ったら、オーストラリアのおにいさんとDr.Sら3人
97-4-23	がいた。送ってきたところであったのだろう。
97-4-24	寝ていても大量の汗が出るので、4時、5時に目が覚める。この時間で31℃ある。
	今日は演者であったが、その場で質問がなく気抜けした。しかし、後でぼろぼろ話しかけられた。
	ただ一人、現地民でないから大変だ。19:30までセミナーは続いた。
	朝に水シャンは何とか心地よい。
	手紙を出した先のトラストの人が訪ねてきた。どうしてここにいることがわかったのかな。新聞で見たのかな。
	人の好い61歳ほどの退職教授であった。私の未来の姿を重ねてみた。
	本意ではないが、ぬるいペプシでもうまい。ソーダ水が懐かしい。久しぶりに多くの知人にあった。
	Dr.Haiderは頼りになりそう。Dr.Kopparは6月で退職だそう。
97-4-25	6:00におき、7:30にtea。寝ていても汗が出るほどに暑い。日本の夏と同じかな。蚊を2匹やっつけたが、まだ
	1匹いる。今日の会議は散漫で面白くなかった。インドにおける意思決定、合意形成がどのようなものかわかる。
	明日も同じであろう。夜行バスでBangaloreに戻ることにした。Ootyに行ってもなんだから、早く戻れてよい。
	唯一のcollectionとして、記録に残る(1996)とは光栄であるが、収集のactivityがいかに低いかかわかる。
	日本での戦略をどうするか。みんなかわいくないし、人手に渡すなら、処分するのかな。アメリカに売るのもどうか
	だしな。筑波にも行きたくないし、結論は急がなくてもいいかな、成り行き任せで。
97-4-26	6:00に起きる。少し何かの夢を見ていたようだが、覚えていないほどよく寝た。ウズベクのチケット取れないとどうしよう
	もないが、後一ヶ月ほど忙しくなりそう。

- 97-5-8 いつもの時間に歩いて大学に行き、9:30に駅まで送ってもらう。少し遅れて11:15頃、Expressが着き、01-3号車に乗る。Airconが効きすぎて、寒いくらいだ。日本のlocal列車並みのきれいさだ。1時頃に着いたが迎えはなかったので、taxiに乗った。乗るほどもなく、CFTRIは駅の直ぐ裏手にあった。丁度、昼食時で、Dr. Maleshは留守。結果的には彼にfaxは届いてはいなかった。幾人かを紹介されて、研究室を見て廻った。Dr. Ali (head) は日本に行ったことがある。現筑波大学の木村氏がここでしばらく研究に従事したようである。夜はDr. Maleshの自宅でdosaiをいただく。1人娘は17歳で、college student、妻女はcollegeの先生で、sociologyを教えているという。*雑穀製品と、モチアワ、キビ、モロコシを送る。Dr. Seetharamに送って、増殖してから、Dr. Maleshには送ってもらったほうが良いであろう。
- 97-5-9 6:00過ぎに起きる。7:00にお茶。7:30にDr. Maleshが来訪、8:00に朝食。8:30に研究所を見学する。10:00から1時間半、セミナー。12:00前に加工機械を見学して、13:00に昼食。その後駅に向い、13:30に同じMadras行きExpressに乗る。14:15に発車して、16:00にBangaloreに着く。帰宅して、夕ご飯を作り、3通の手紙と2通のファックスに返事を書く。
-
- 97-5-11 14:00前に家を出て、MG Roadに行き、昼食を取ってから、空港に向かい、16時前に着く。18:15、Calcutta行きのJetAirWayに乗る。19:15にHyderabadに着く。迎えの車あり。20:20にはdormitoryに着き、21:00には寝てしまった。
- 97-5-12 大変に西欧化されたところで、別世界のような。Airconがうるさく、ずっと飛行しているようだ。6:00頃起きる。Bathroomは2室で共同なので、様子見で使っていないが、隣人はいるようだ。9:00にDr. ReddyとDr. Hashを訪ねる。Pealmillet と *Sorghum* の話を聞く。13:00から、6名以上に会う。Dr. Leeに招かれて、ビールを飲み、彼の自宅に行く。Dr. Josephガーナ、Dr. 稲垣（京大育種で小林さんの2年後輩だという）CIMMYT、山本アキコ（東北大学院生）、Dr. 中村卓司。稲垣さん以外が日本のプロジェクトメンバーらしい。中野氏がPLのようだが留守で、明日日本から戻るという。

97-5-13	Leeさんは9月に日本に帰る。四日市大学に就職。日本生まれ、韓国籍。北大、名大を出てから、US、ブラジル、インドと転職してきたという。 APは一昨日から禁酒法が解除された。ICRISATの土地は、黒土と赤土が近接してある。黒土のが肥沃で、コブラもすんでいるらしい。阪本さんが来たことを彼は記憶していた。 6:00に起きて、シャワー後、朝食。 その後、Dr. Hashのところに行き、3名の話聞く。図書館と出版部に行く。 昼食後、2名とも出勤していなかったの、稲垣さんのセミナーを聞いて、遺伝資源保存の部屋を見る。 short ; aircon. Midle ; 5℃. Long; -20℃. 3つの貯蔵法で行なっている。 15:20に本代を支払いに行き、15:40にLibraryでflopyを受け取った後、 Dr. 中野のところに行き、18:00にDurbar Drive Innに行き、20:00に彼の宿舎で麦茶付けをいただく。 21:00頃寝る。
97-5-14	5:30に起きたが、シャワーをする時間がなく、稲垣さんが6:30に来室、cantineに行く。 6:45まで待って、朝食と弁当を頼む。 7:30出発が例のごとく、9:00近くになって車が来て、Fort、museum、tonb、を巡る。 13:00に大学に行く。Center for Plant Molecular Biotechnologyを訪ねる。 稲垣さんが講義をしてから、10分ほど話させられたが、時間がなく、質問もなし。 14:40に彼は空港に行き、私は残されて、Dr. Seetharamaら一行と一緒に、17:00少し前にICRISATに戻る。 支払いをしていたら、Dr. Hashが挨拶に来る。Dr. LeeとDr. Nakamuraの部屋に行ったが、すでに帰宅後であった。 Domiroryに戻ったら、メモがあって、Prof. Swamyが朝来たので、18:00に来るように言ったとあったので、待ったが、彼は来なかった。 19:00に夕食をして、シャワーを浴びて寝ることにする。20:40にProf. Swamyから電話があって、7:00に空港で
97-5-15	待っているという。明日朝、6:30に出発する。 5:00に起き、準備をして、6:20に外に出て車を待つ。6:32に空港に向かう。 8:45-9:45、時間通りにフライトして、11:00前にはYelahankaに着く。
帰国の旅	
97-6-7	急遽、明日出発の予定が、今日のほうがよいということになる。HY152の時間が早くなったこと、date issuedが今日

になっており、誤っているのです、至急とラベルエージェント(デリー)と連絡をとらねばならなくなりました。

贈られた土産に少しくッションを入れて、第3のスーツケースをコマーシャルストリートで、朝一番に買い、aircagoにすることにした。

昨日中に掃除をしておいてよかった。なんとかvisaは届いたが、大変に忙しい一週間であった。まことに旅先が思いや

れることだ。Invoiceのcopyを頼んだが、くれなかった。Keysは送るように頼んだ。領収書はある。6月30日に着くように

送るといった。

23:00に急ぎなので、文句も言わずに、高級マウリアシェラトンの、しかもよい部屋に泊まった。8時間居るだけで、400\$

も払った。とにかく急いで、代理店の自宅に電話して、HY152の日付についてOKであることを確認した。

97-6-8

朝自宅に電話して、そまと長話した。早めに空港に向かった。3時間前なのに荷物チェックが始まっていた。チケットはOK

であったので、とにかくチェックインした。なんとか、HYには乗り、Tashkentには向うことになった。sheet noがなく、適当に座ったが、いやなことにパンジャブの若い一家が遅れて乗り込み、席を移動させられ、4時間、

赤ん坊に泣き続けられて、うるさかった。パミールの山は少し見えたが、美しかった。

空港に着き、散々に待たされ、さすがに外国人は少なく、入国するのに財布の中まで調べられた。めちやくちな国だ。

人前でスーツケースを開けさせられ、まったく嫌なことだ。やっと外に出たら、Mr. Sarvarサルバルが待っており、UZ

ホテルまで送ってもらった。換金してもらい、夕食を一緒にとる。HY151のリコンファームのOK.

どうもNAMUSは縮小のようで、何人も解雇されて、他人事どころではなさそうだ。大変な時に来ている。

通貨はCYMソンに変わっていた。\$ =65Cymだから、2円ほどか。夕食は4000cymもかかった。UZホテルは閑散とし

ていた。近所に新しいホテルが2つできたらしい。別に移る必要もなく、ここに一週間居ることにする。

97-6-9

9:00すぎにMr. Samrvarが来て、NAIRRUに行き、Ms. マフムードに会う。昼をMr. Sに奢ってもらう。

BazarとMedresseに行く。

15:00にJEに行き、芦田氏にお礼を言う。あれだけやってくださった割には淡白で、30分くらいで話は終わる。

	大使は日本で、臨時大使も留守だという。その後、ホテルで少し寝てから、街をぶらつく。着実に変化している。 昨日のインドと大違いの暮らしぶりがある。ハンバーグ屋で夕食を済ます。ホテルは高すぎて、東京と変わらない値段だ。 部屋は改装中だが、このままだと寂れる一方かな。風呂のセンがないので、お湯が出ればだが、シャワーだけかな。 インドのゲストハウス並だ。 NAIRRUでMr. Fall (UZRIPI)に会い、同所に行く。Mr. Akseleiに4年ぶりに会う。Dr. Zakirはタイに行っているそうだ。 女性の副所長に昼食をいただく。調査と国際学会については賛同を得た。午後は借りた本のコピー。文献がほしかったが、 Mr. Aの通訳では意思がよく通じずに、どうも諦めざるを得ないようだ。Mr. FはKoreaに行くので、Dr. Parkを紹介しておいた。 もし来れたらと、東京に誘っておいた。まだ若いのに、室長なのだろう。いろいろ研究所の経営も大変そうだ。 夜はSarvarさんの兄宅に招かれた。夕食の材料はバザールで買い、ほとんどを支払った。別にチョコレートとビールを 土産にした。空手の師範だそうだ。23:00にUZホテルに戻って、元大使館の料理人とビールを飲んだ。 <カザン・カバブ>の作り方： ①ヒツジの脂身1kgを弱火で抽出する。厚手の鉄鍋を用いる。この鍋をカザンと呼ぶ。 脂身が脂を失い、茶色のえびせん状になるまで、ゆっくりと過熱する。 ② 茶色の揚がった脂身を取り出す。これは塩を振って、ビールのつまみにする。 ③ ジャガイモの半切れを、油で揚げ、茶色になったら取り出す。 ④ 赤身羊肉を油脂で炒める。よく熱が通ったら、ジャガイモと混ぜて、塩を振る。コショウはその後、好みで加える。 ⑤ 大皿に盛り付けて出す。 10:00にタシケント東洋大学に行き、副学長に会う。姉妹提携について感触を聞く。積極的であり、菅野さんも望んでいた。 図書室やLLを見せてもらう。教室で少し話をさせていただく。12:00過ぎに植物園に行くが、寂れ切っていて、しばらくして、 帰ってきた。歩行者天国？で昼食を済ます。プロフ、シャシリークなど。ナボイ劇場前で、2時間くらい過ごす。 passportを返してもらい、イスカデルさんにはfaxを送る。電話は繋がらなかった。夜はFM Hambergerに行く。 今日は博物館めぐりをする。Arts、Applied ArtsとHistory。レーニン博物館はなくなり、歴史博物館になっている。
97-6-10	
97-6-11	
97-6-12	

- ホテル前の新しい建物がチムール博物館らしい。夕方、TSOSIの6名と川辺のチャイハナに行く。
22:00まで、いろいろ話す。彼らの熱意はわかる。国のシステムに問題点が多すぎる。日本に送ってくる学生は大学
幹部が決めている。日本語学科の推薦は反故にされている。交流協定には積極的のようなので、資料を送る。
エノコログサは開花中で、市内の花壇、路傍によく見られる。
- 97-6-13 NAIRRUとJEに御礼に行った。次回はmulti-one year visaも取れるそうだ。トイレのために
Exhibitionを見る。午後、
チムール博物館、夕涼みをしていて、大学生と話す。外語大学でフランス語を学んでいるという。
18:00, Mr. Sarvarが来る。
- 97-6-14 昼はLagoonというレストランに行った。味は悪くないが、客は一人もおらず、高いのであろう。
昼食を公園に食べに行った。荷物整理と昼寝。20:00すぎにMr. Iskandal, Y. が来訪した。忙しくて家に
居ないという。
10回電話したそうだが、部屋の電話は一度もならなかった。とにかく会えてよかった。白頭山レストラ
ンに行く。
その後、22:00に寝たが、2:00に起きて、3:00前には空港に向かう。Excess 84\$ (14kg) の半券を渡さ
ない。Billも渡さず、
機中で渡すという。このお婆さんは自分のポケットに入れたんだ。どうしても信用できないので、もう
一度税関を出て、
半券をもらいに行った。甘かったな、とにかく書付無しには何の証拠もない。いい加減だよね。給料が
ないか、少ない
からか、こうした不正をしないと暮らせないのか。外国人と接点のある人はうまいことをするのだ。
Mr. Sarvarの言い値は350\$、これも法外だと思うが、もうよしとしよう。この国の人には信義がないん
だ。
- 97-6-15 9:00にDelhiに着き、寝ることにする。夕方自宅に電話をする。
- 97-6-16 朝食後、2日間の日程を決める。TGとUAのreconfirmをすること。TGのOffice Park Royal Hotel、Nehru
Placeに移動、
コンノートから15kmはある。
14:00にICARに行き、Dr. MangakaRaiとDr. Parodaに会う。
15:00にNBPGRに行き、Dr. KoppaとDr. Aroraに会う。
すべて、国際学会の創立と4カ国合同調査には好意的であった。セミナー中で、NBPGRの所長には会えな
かったので、
名刺と手紙を渡してもらった。
- 97-6-17 9:00にDr. Seetharamに成果報告の電話をする。
11:15、WWF-Indiaに行く。Dr. Nairの迎え、2時間ほど、SG, Mr. S. Singhほか大勢に紹介され、本を購入
し、資料をもらい、

- これらはsea mailで送ってもらう。
午後は休憩。あまり寝られず、屋外は42℃、このためか火事が多いようだ。19:00に夕食をとり、
20:30には空港に向かう。
1時間の遅れで、散々に待たされ、18日の1:00過ぎに出発した。
6:00すぎにBangkok、ここでもなすことなく、ぼーとして、11:05の北京行きに乗る。
15:00、Beijingに着き、ホテルに向う。案の定、3倍のタクシー代を取られた。後進国の空港にはどこでもろくな人間が居ない。外国人に不正を働いて、自国を損じている輩だ。
ラッシュタイムで1時間少ししかかって、ホテルに着く。空港で200\$、ホテルで2000\$換金する。
夕食は野菜炒めと、ビールを飲んだ。
明日は石家荘への予約、中日環境保護中心へ行く。IPGPにcontact。
石家荘への予約、明日の予約のfaxなどを送り、11:00頃に中日環境保護中心に行く。全先生に昼食をいただき、15:00に
ホテルに戻る。別のHoliday Innに送られ、もう一度taxiに乗り換えて、HICPに着く。着く直前に夕立がやってきて、
風雨あり。20:00（日本の21:00）に自宅に電話したが誰も出なかった。
16:00にDr. Chenjiangから明日9:00に迎えに来る旨電話があった。
9:00に迎えが来て、遺伝資源研究所に行く。4名に会う。Deputy Director女性、Dr. Chen、6年前に退職、
Mr. Lu Ping, 陸平；雑穀の責任者。 Mr. Li Yu、黎裕、アワを研究している31歳。
住所、氏名は略す。3つの提案については好意的であった。遺伝資源の交換は可能だが、持ち帰りは困難のようである。
Ethnobotanyの研究課題で提案したほうがよいという。昼食後、IPGRIのAssistantCoordinatorに会う。Dr. Zhangも提案には協力的であった。第3回InternationalWorkshopを来年中国で開催するためには、CAASやFAOに
pushする必要がある。資金がないから、USがムギ以外に力を入れなくなった。これが資金のcutにつながっている。
中国の雑穀研究者は100名ほど、雑穀研究所は2つある。
8:30にホテルから長城に向う。市街を出る、高速道路はかなり立派な物だ。スイカが市街にあふれている。
畑にはトウモロコシとマメ類が多い。何マメかはわからない。ウリ、小さな白桃、トマト。
9:14、麦刈りをしている。田植えは終わっていたので、6月初旬頃であったのだろう。
9:20、土産物屋で早速休憩。路傍では*Setaria viridis*が開花し始めていた。*Panicum* sp. は見当たらない。
道路沿いにはPopulusが植えられている。
- 97-6-18
- 97-6-19
- 97-6-20
- 97-6-21

10:06a発。80m。畑地には恐らく、トウモロコシ。ヤナギとアカシアが街路樹に多い。麦秋からして、ムギ畑が多い。

果樹園には、桃かプラム、リンゴが植えられている。稀に水田?らしき物があるが、バスの車窓からはよく確認できない。

エノコログサは路傍に大変多いが、大型のものはなかった。キビ属は見られない。トウモロコシのほかに、繊細な seedlingがあるが、アワであろうか? 路上では麦を干している。 *Mazus japonicus* は少し見られた。Rorippaはない。

10:13-11:06。明十三陵に着く。 *Setaria viridis*. *Agropyron* spp. 2種。 *Lolium* sp.

11:12-13:00、長陵の見学と昼食。ガイドのLucyはよくしゃべる。

14:00、長城に着く。下で660m、砦の上で、820m。確かに延々と続いている。

15:30、帰途に着く。トウモロコシが多い。ロバが稀にいる。ラクダは観光用にいる。

中国でも路上脱穀をやっているようだ、種を干していた。レタス、タマネギ、開花中のナノハナ?、乳牛5頭。

15:51、山側は果樹園。畑地はよく乾いているようだ。水田は見られない。

葉が細い植物があったが、アワかもしれない。630m。

16:35、八達嶺で、北京への高速道路に入る。

97-6-22 10:00に歩いて、天安門、故宮、歴史博物館に行く。約1万年から五千年前のところで、アワ・キビが中国華北で起源した

としている。キビは黍稷とで地理的機嫌が少し違うように描かれているが、区分するほどではないと思う。

炭化米、アワの写真はとった。

昼食を街中でとって、王府井と平行している道、一直線の狭い市場を北上して、ホテルに戻った。3軒あった穀物店で

どこでもアワを売っていた。イネ2-3袋に対して、1袋の割合であった。500g/元であった。

両側に八百屋、肉屋、魚屋、雑貨屋、いろいろ売るものによって、職種によってかたまって並んでいた。

97-6-23 6:00にcheckoutして、7:00過ぎに、北京西站に行く。1時間ほど待ち、

8:50に発車、西宇行きNo. 75、硬座でも十分であった。満席、保定の次が石家荘であった。

12:00過ぎに着き、Dr. ChenとMs. Zhiが迎えに来ていて、北京賓館に予約してもらい、昼食に行く。

16:00にDr. Chenと若い研究者が来て、日程を決めた。セミナーの準備。

18:00に夕食会を別のホテルですてもらう。21:00にもどる。

97-6-24 8:30a IMC、研究室と圃場の見学

10:00 Seminar

12:00 ; Domestication and Utilization of Small millets

15:00-18:20, Seminar

①Prof. Wang 王潤奇； アワのtrisomic series の研究で、第4?染色体にwaxyの遺伝子があるなど、興味あるデータが

出されている。論文のcopyをもらう。

②Mr. 刁現民ら； アワのpptの敏感性試験。濃度に対するカルスの生長、クロマチンを入れると、再分化植物の多くは

アルビノ化する。Maile steril line へのppt処理。Resistantの率が品種によって異なる。

③Ms. x ; Brust、40℃の温水処理で除ける。いくつかのアワの病気と系統分化の話。

④Ms. Zhi； 種子の保存生理の研究、発芽生理、休眠。41 (–45) °C 発芽テスト条件 100% r h (高湿)、48時間。

AA test (accelarated aging)、国際基準に従ったテスト。16 lots試している。一般のテストは20–30℃でやっている。

ティシュペーパー1–2枚に巻き込んで行なう。AA test処理によって、種子の発芽率が、系統によって大きく異なってくる。

⑤アワのheterosis、雄性不稔の利用。

⑥Dr. Wang； RFLPmarkersの汎用性、イネ科のDNAのmapping、フィンガープリント、Canbridgeの

Dr. Gel?と共同研究という。

19:00p前に、ホテルに戻る

Seminarは初めての試みで、若い副所長が(37歳)王博士が若手の研究者に英語で話させようとした。所長は不在のようだ。

8:00にIMCに行き、下記の計画について話し合う。

11:30にホテルに戻る。2編の小論文を雑穀研究に載せるように、依頼され、引き受ける。10年報2冊と最新の谷子育種学

をもらう。

15:00–16:45； 隆興寺の見学

1) International Society of Small Millets; Fondを求めて、UK, USのkey personに手紙を書く。

2) Joint Exprolation; 4 countries、 3 years plan。 West & East Turkestan. Assam and South China

3) Third International Small Millet Workshop。資金が得られれば、BeijinかShinjanzhouで、1998年に

資金が取れれば、開催してもよい。

4) Internet Home Page on millets

8a, 近郊農家を訪ねる。河北省晋県？ 呂家莊、Lujia village, Jin County, Hebei.

村の人口は 5540人。耕地面積はおおよそ400ha。

南中国はイネが多いが、北中国はコムギと雑穀を作り、かつ好む。

小麦が主食で、蒸しパンやうどんにして食べる。茎葉は牛馬の飼料にする。家畜は農耕用である。

97-6-25

97-6-26

	アワ谷子 guzi 栽培： 6月に播種して、9月末に収穫する。作付面積は 5050ha。約3ヶ月。収量は7000kg/ha。 ①もっぱら粥にして食べる。アワ粥は健康によいから、朝晩に食べる。 ②蒸しパン； ダイズ粉とアワを混合して作る。 ③煎餅 jianbing。ウルチ性品種しか栽培していないので、今はもち米を使う。数年前までは栽培していたという。 アワは酒にはしない。アワは自家消費が主で、少ししか売らない。 キビ： 20－30年前まではたぶん栽培していた。 モロコシ： ここでは少ししか作ってはいない。夏期はビールに、冬季は酒にするが、種類は著しく多い。 マオタイ酒は300元して高いので、農家では買わない。 農家を訪ねる： 中堅レベルで、一人当たり年収は3000元ほどという。マルクスから毛沢東まで、写真が飾ってある。 2ベッドルーム、日本製のビデオなどがある。夫婦と男の子2名。裕福な農家と思われる。 Ms. xの義理の姉宅も同じような家作。図あり。 15:30にホテルに帰る。 18:30、国際大廈で、8名とお返しの夕食会。 21:00－24:00、河北賓館で飲む。
97-6-27	8:22のY222に乗って、北京に戻る。 13:00前にホテルに着く。昼食後、風呂に入って昼寝する。荷物の整理をする。 前夜、酒の飲みすぎとタバコの吸いすぎで、朝は気持ちが悪かった。
97-6-28	石家荘站で、肉まんを食べて、アワ粥を飲んだ。一般的な食品なのであろう。水が多くて粒が少ない。 9:40－19:00、天壇、頤和園、故宮の見学。故宮の博物館は見えていない。昆明湖はボートで横切った。 天壇の空からの構図は面白いと思う。
97-6-29	
97-6-30	帰国